

## 社会調査の基礎

### 【担当講師】

吉田 渉、貫井 政文

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査に関する基本的事項のポイントを、インタビュー調査とアンケート調査を中心に効率よく学習する。修士論文作成や職務の中で社会調査を実施する際に、問題関心や目的に沿った的確な方法で適切に調査を実施し、分析し、結果をまとめるための基本的な考え方を習得する。授業は基本的にテキストである「社会調査の基礎（放送大学）」に沿って行う。

### 【到達目標】

社会調査に関する基本的事項（社会調査の目的、各種調査方法等の要点）を身につけること。特に、修士論文でインタビュー調査やアンケート調査を的確に実施できることを目指す。

### 【受講対象】

法政大学大学院の修士課程在籍者で、自ら社会調査を企画・実施する計画がある学生

### 【授業の実施方法】

zoomによるオンラインとする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし

### 【授業日程】

1日目：8/8(月) ①18:35～20:15、②20:20～22:00

2日目：8/9(火) ③18:35～20:15、④20:20～22:00

3日目：8/10(水) ⑤18:35～20:15、⑥20:20～22:00

4日目：8/11(木・祝日) ⑦18:35～20:15

### 【授業計画】

※「テキスト項目」の数字はテキスト（教科書）の該当項目にあたる。

※授業内容は受講人数等によって調整することがある。

授業回数	テキスト項目	テーマ	内容
①	1	社会調査とは何か	「調べる」という営みである社会調査の固有の特徴を理解した上で、社会調査の大まかな種類や、社会調査を学ぶ意味について学習する。
	2	社会調査の歴史	社会調査についての試行錯誤の中からいくつかを採り上げ、社会調査の発展の上で果たした意味について学習する。
	3	研究と社会調査	研究という一連の営みの中で社会調査が占める位置、仮説の種類や、仮説を検証するということの意味などについて学習する。
	4	社会調査の対象と方法	調査の方法について、量的調査と質的調査に区分した上で、それぞれの長所や短所等について学習する。
	5	既存の資料・データの収集と活用	既存の資料やデータの探索方法や収集方法、社会調査のデータ・アーカイブの活用可能性等について学習する。
②	6	質的調査(1)質的調査の種類と考え方	質的調査の基本的な考え方について学習する。質的調査の特徴やその種類（フィールドワークやインタビュー調査等）について解説するとともに、調査倫理についても確認する。
	7	質的調査(2)インタビュー調査	インタビュー調査の種類やプロセス等の具体的方法について学習する。また、インタビュー調査時の注意点についても解説する。
		グループワーク	質的調査について（2人グループで互いにインタビューする。テーマは●●）

③	8	質的調査(3) 参与観察とフィールドワーク	参与観察とフィールドワークについて学習する。参与観察やフィールドワークで得られたデータの記述方法、データの整理・分析の方法（KJ法等）について学習する。
		個別作業	KJ法について（提供する事例に沿って各自でKJ法を体験する。テーマは●●）
④	9	量的調査(1) 調査の手順	量的調査について調査全体の手順と、それぞれの段階で考慮すべき事項等について学習する。
	10	量的調査(2) 母集団と標本	全数調査が困難な場合の標本調査について、母集団から標本を抽出する際の方法や留意点、母集団と標本との関係等について学習する。
	11	量的調査(3) 調査票の作成	調査票の構成、質問項目の設定、質問文の作成の際の留意点等について学習する。
		個別作業	量的調査について（提供するA4・1枚のフォーマットに沿って各自自分の研究テーマや関心事について調査票を作成）
⑤		個別作業	量的調査について（提供するA4・1枚のフォーマットに沿って各自自分の研究テーマや関心事について調査票を作成）
	12	量的調査(4) 調査票の点検とデータ作成	調査票を回収してから実際の分析にとりかかるまでの間に必要となる一連の作業の実際と注意点について学習する。
⑥	13	量的調査(5) 変数間の関係を把握する	変数の種類について確認した上で、データの基本的特徴や特定変数間の関係を把握する方法等について学習する。
	14	量的調査(6) 母集団を推測する	①標本調査の結果得られたデータから母集団の特徴を推測する方法について学習する。②記述統計と推測統計の違いを確認した上で、統計的推定と統計的検定という2つの推測の方法について基本的な考え方を学習する。
	15	社会調査と現代社会	社会調査の報告書の作成の仕方、社会調査における回収率の低下と調査拒否という問題とその背景、社会調査を行なう際に求められる調査倫理について学習する。
		グループワーク	量的調査の調査結果について（提供する調査結果を分析する）
⑦		課題発表	自分の修士論文で利用する社会調査について発表、Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の該当箇所について事前にテキストに目を通す。所要時間30分

【テキスト（教科書）】※購入してください

北川由紀彦・山口恵子『社会調査の基礎（放送大学教材）』放送大学教育振興会、2019年

【参考書】

佐藤郁哉『社会調査の考え方〔上・下〕』東京大学出版会、2015年

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年

【講師プロフィール】

吉田 渉

2012年に法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科で経営管理修士、2021年に早稲田大学大学院社会科学部で博士(社会科学)を取得。時事通信社（世論調査や市場調査を10年以上担当）等を経て、現在は一般社団法人地域資源研究所代表理事。法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科特任講師、法政大学地域研究センター客員研究員も務める。

貫井政文

2010年に法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科で経営管理修士、2019年に法政大学大学院公共政策研究科で公共政策学修士を取得。専門社会調査士。2010年から中小企業診断士としてコンサルティングおよび調査・研究に従事、現在は一般社団法人地域資源研究所代表理事。法政大学地域研究センター客員研究員、日本工業大学大学院技術経営研究科客員教授も務める。